



川の水は、なぜしょっぱくないの

雨はしょっぱくない

海の水がしょっぱいの、川の水がしょっぱくないのは、不思議な気がします。川の水は、雨が地面にしみこみ、それが地表に流れ出したものです。そして、雨はしょっぱくありません。

ところが、雨を降らす雲は、海の水などが太陽の熱で蒸発した、水蒸気からできます。海の水は、しょっぱいのですが、蒸発するときに塩分は残り、雲をつくる水蒸気には、ほとんどふくまれていません。

川の水は、川底の岩や石の間を流れる間に、岩や石にふくまれている塩分を、少しずつとかしこみます。川の水には、しょっぱいほどの塩分はふくまれていませんが、塩分は少しふくまれています。そして、その塩分を海に運んでいます。

いつも流れているので、塩分がたまらない

川の水には、炭酸化合物というものが、多くふくまれています。この炭酸化合物が、川の水と一しょに海に流れこみ、海の水に混ざると、海にすむ生物は、炭酸化合物の中の炭酸カルシウムをとり入れて、骨をつくりまします。そして、生物が死ぬと、骨は海底にしずみまします。

このように、炭酸化合物は、生物によってどんどん使われますが、塩分はほとんど使われないので、川の水が海に流れこむたびに、海の塩分はこくなっていきます。

ところが、川では、いつも水が流れていて、川の水にふくまれている塩分が、たまることがないので、川の水はしょっぱくないのです。（監修・国司 真）

